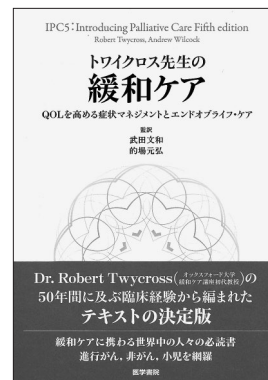


BOOK Review

トワイクロス先生の緩和ケア QOLを高める症状マネジメントと エンドオブライフ・ケア



評者 加賀谷 肇 医薬品適正使用・乱用防止推進会議副代表理事

オックスフォード大名誉教授のロバート・トワイクロス先生を知らずして緩和ケアに携わっているメディカルスタッフはいないと言っても過言ではないほど、わが国をはじめ世界中でトワイクロス先生の書かれた著作は生きた教科書として使われている。

私も緩和ケアにかかわりを持つようになって30年余り過ぎたが、自分の人生でハイライトとなったのが2008年10月に開催した第2回日本緩和医療学会の年会長としてパシフィコ横浜にトワイクロス先生を招請できたことである。メインホールが通路まで聴衆で埋め尽くされ、感動的な講演会となった。その特別講演の座長の労をおとりいただいたのが武田文和先生であり、そもそも私を緩和ケアの道に誘ってくれたのが的場元弘先生である。

前置きが長くなってしまったが、武田先生と的場先生の監訳によるトワイクロス先生の最新刊が翻訳刊行された。サブタイトルとして「QOLを高める症状マネジメントとエンドオブライフ・ケア」とあるように、緩和ケアの基本、症状マネジメント、エンドオブライフ・ケアを解説したものである。

網羅性の高い構成であり、「第1部」緩和ケアの概要、倫理、コミュニケーション、心理ケア、スピリチュアルケ

ア、死別ケア、「第2部」症状マネジメントとエンドオブライフ・ケア、アドバンス・ケア・プランニング、「第3部」小児のケア、「第4部」重要薬、「付録」には英国医学部の緩和ケアカリキュラムなどが含まれている。また、従来緩和ケアが対象としていた進行がんにとどまらず、神経難病、COPD、循環器疾患も踏まえた記述がされている。小児患者、がんの親やきょうだいを持つ小児のケアも盛り込まれている。エンドオブライフ・ケアについては、死にゆく人の意向、事前指示を尊重するために英国の制度下で医療者が遵守すべき具体的な手順が示されており、今後のわが国の実践に参考になる。私は『トワイクロス先生の緩和ケア処方薬』の初版、第2版（いずれも医学書院刊）の翻訳委員会主幹として携わったが、科学的エビデンス、社会正義、人間愛、この3つが本書にも共通して流れていると感じずにはいられない。

本書は緩和ケアのバイブルとしてあらゆる臨床状況にも応用し得るもので、患者の選択を支持し、寄り添う医療の在り方を提示してくれる。多職種連携の重要性は言うまでもないだろう。あらゆる職種の方に座右の書として持っていただきたい一冊である。

Robert Twycross, Andrew Wilcock (編), 武田 文和, 的場 元弘 (監訳)
A5判/440頁/2018年/定価(本体3,400円+税)/ISBN978-4-260-03550-7/医学書院刊